

■ 令和元年度 第4回秋葉区自治協議会 会議録

日時：令和元年7月26日（金）午後1時

会場：新関コミュニティセンター 大ホール

1 開会

（金子会長）

皆さんこんにちは。本日はいつもの会場とは違いまして、新関コミュニティセンターへの出張開催ということでございます。新関コミュニティ協議会の皆さまには温かくお迎えいただきまして、ありがとうございます。新関の皆さまの温かさにも負けないくらい、暖かい本日の気候でございますけれども、昨日あたりから突然気温が上がりまして、皆さま体調等は崩されていないでしょうか。私などは、暑すぎて、朝から頭がぼーっとしているくらいですが、この暑さに負けないくらい熱い充実した議論を会議でもお願いしたいと思っております。

今日の次第、資料等は事前にお配りいただき、お目通しいただいたと思いますが、今日のメインになります議題は、秋葉区の特色ある区づくり事業についてということでございます。これは本当に重要な私どもの一つの役割で、しっかりと議論して、いいアイデアを出していくところが大事だと思います。今日の会議は進行上、工夫を1点盛り込ませていただきました。前半はこの形でいつも通りやらせていただきますが、後半は皆さまにご協力いただいて、場を作り替えて、ワークショップ形式で、この委員のメンバーの間で化学反応みたいなものが起きたらいいなと思ひまして、少し変わった趣向で、いいアイデアをお互い引き出しあう試みを、今日は初めてやってみようと思っております。ということで、なるべく前半の部分の会議に関しては、効率的に進めて、後半のワークショップにしっかり時間を取れるように、皆さまの進行へのご協力をよろしくお願ひいたします。

それでは、進行させていただきます。本日、いつものとおりFM新津様から取材のご協力依頼をいただいております。写真撮影、録画録音などを許可してよろしいか、お伺ひしたいと思ひますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声）

異議がないようですので、許可いたします。

それでは、次第に基づきまして、進めさせていただきます。その前に、本日せっかくこうして新関コミュニティセンターにおじゃましていますので、新関コミュニティ協議会の渡辺会長様よりごあいさついただき、新関地区の取組みについてぜひご紹介いただきたいと思います。

います。渡辺会長、よろしくお願いします。

(新関コミュニティ協議会長)

みなさんこんにちは。今、ご紹介いただきました、新関コミュニティ協議会の会長を仰せつかっております渡辺と申します。こういうことになるとは夢にも思っていませんでした。もうさっさと辞退をしているつもりだったのですが、いろいろ事情がありまして、4月の終わりの代議員会以後、会長として務めさせていただいております。よろしくお願いいたします

今日は自治協議会の皆様、役所の皆様、また関係の皆様、ようこそ新関においでいただきました。本当に心から歓迎を申し上げたいと思います。新関に初めておいでになった方も、先ほど玄関先でごあいさつしていたら、おありのようでしたが、初めての方は手を挙げていただけますか。ありがとうございます。新関とはいいいながら、新津駅を起点とすれば南のはずれなのでしょうか。すぐ隣は五泉市です。隣といっても、私どもが新関村といった時代に、仲間がたくさんいた地域でもありますが、今、八つの自治会で成り立っております。ちょうど皆さんがおられるこの辺が、かつての新関中学校のグラウンドのバックネットであたり位置します。そちらのほうがかつて校門にあたっております。そういう位置にかつてはあったのでありますが、新関中学校が、生徒数の減少がございまして、十六、七年くらいになるでしょうか、第五中学校と合併することになりました。この合併で中学校がなくなったということで、地域住民は大変なショックを受けていたわけでありまして、言葉が正しいかどうか分かりませんが、意気消沈というようなときもありましたけれども、ちょうどそのころ、新関コミュニティ協議会というものが立ち上がった時期でありまして、これではいかんということで、何とかもう一度かつての新関地域を取り戻したいということで頑張ってきて今日に至っております。

今、合併の話もしましたが、新関地域は大変田舎で、まさに田園風景が広がる地帯でありまして、阿賀野川、早出川、能代川という三つの川に囲まれたところですが、そういう意味では風光明媚、田園風景が広がる、私は個人的に勝手に新関平野なんていっておりますが、非常にのどかなところではありますが、かつては交通手段がなく、陸の孤島などといわれた時代もありました。けれども、大変活気のある勤勉な学校思いの地域ではありますが、中学校がなくなったということで、困った状態の中で私どもいろいろ取り組んでまいりました。コミュニティ協議会が立ち上がってしばらくして、地域のコミュニティセンターができました。ほとんど同時に新しい新関小学校ができました。そのグラウンドは見えますが、その向こうに保育園がございまして。このグラウンドを囲んでいろいろな大事な施設が建ち並んでいるわけですが、まさに私どもの文化の発信の地といえますか、あるいは受信の地といえますか、

大変恵まれた環境の中で生活させてもらっております。いずれにしましても、人口減という問題もあります。少子化、高齢化などさまざまな問題を抱えておりますけれども、何とかその辺を打破して、これからどうやってこの地域を盛り上げていったらいいかというのが大変大きな課題になっております。いろいろな取組をいくら頑張ってももうどうにもならない部分がたくさんあるのですが、これはどこの地域でも同じようなことが言えるかと思えます。そんなことで、細々といいながらもとにかく頑張るという気持ちで、今、役員共々一致団結して取り組んでおります。

こういう環境でありますので、小学校との関係も大変うまくいってございまして、皆さん通ってこられたと思いますが、このコミュニティセンターと小学校、渡り廊下でつながっております。わずか五、六センチ隙間が開いているのですが、これは法律上の都合でやむを得ないのでございますけれども、こちらから電話して、鍵開けてといえ、鍵開けてくださって、これから書類を持って行くから頼むわとか、そういうお互いにそんなやりとりをしてございまして、たいへんありがたいなと。そういうことで大変、関係がうまくいってございまして、私どもも、小学校の子どもたちのために大いにバックアップということで、余計な口出しはしないけれども、要請があったらいくらでもお手伝いするよというようなことで続けております。併せて保育園も同じようなことがいえるわけです。この4月から、学童保育を立ち上げさせていただきました。地元にあった学童さんは事情があつて閉鎖するということになりまして、なんとか新関コミュニティセンターで新関コミュニティ協議会がやってくれないかというお話しもございました。いろいろ検討いたしまして、今、共働きが多いですので、何とかおうちの方の要望に答えたいということで、役所の皆様ともいろいろご相談させていただいて、4月1日になんとか開設にこぎつけたところです。人数は少ないですけれども、子どもたちが「ただいま」といって入ってきます。我々が「おかえり」というやりとりの中で児童保育が行われております。夏休みに入りまして、若干、休みだけの子どもが少し増えておりますので、昨日、今日などは賑やかで大変な事態になっています。このホールを使わないときは自由に使えますので、子どもたちは伸び伸びと動いております。したがって、けがをさせないようにということが一番心配でありまして、その辺は工夫しながら頑張っております。とにかく大変喜ばれておりますので、いろいろな側面から御支援いただければありがたいと思っております。

これからみなさん時間が大変貴重な時間が迫っているということですので、余計な話はこれくらいにいたします。いずれにしましても、7月で私ども前期と位置づけてございまして、まもなく前期が終わります。8月は自治会の皆様のお祭り、子ども会の行事がいろいろありますので、私どもは充電期間ということですので。9月からは後期ということで、早速、史

跡めぐりなどが始まります。コミュニティセンターも 10 周年を迎えておりますので、なんとか後半のどこかに 10 周年記念をやってみたいなと思っておりますけれども、また忙しい時期を迎えますけれども、皆さんのお力をお借りして、活気のある新関地域にしていきたいと思っておりますので、これからもご支援くださいますようお願い申し上げまして、簡単でございますが、歓迎のあいさつも含めお話しさせていただきました。ありがとうございました。

(金子会長)

渡辺会長様、ありがとうございました。新関コミュニティ協議会さんは本当に進んだ取組みを展開されていまして、その基礎になる地域資源も豊富な地域でいらっしゃいます。実は私も密かにこの辺のファンでして、地図を片手に 1 人でこっそりやって来たこともあります。まち歩きも大変楽しいところです。皆さんももし機会がありましたら、ぜひ、新関探検をしていただければと思います。ありがとうございました。

先ほど FM にいつ様をご紹介したのですけれども、本日、新潟日報様と建設速報社様の 2 社も取材にお見えになっていらっしゃるということです。同様に取材を許可してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございます。許可させていただきます。

2 議事

(1) 第 2 回秋葉区自治協議会委員推薦会議の開催について (報告)

(金子会長)

では、第一部の議題に入りたいと思います。次第 (1) 「第 2 回秋葉区自治協議会委員推薦会議の開催について (報告)」ということで、座長の小林委員より報告をお願いいたします。

(小林委員)

座長の小林でございます。先ほど別室にて委員推薦会議がございましたので、報告いたします。このたび、秋葉区民生委員・児童委員連絡協議会選出の、渡辺律子委員が 6 月 30 日付で退任することになったため、令和元年度第 2 回秋葉区自治協議会委員推薦会議を開催し、後任の委員を推薦することになりました。渡辺律子委員の後任としまして、秋葉区民生委員・児童委員連絡協議会から、長谷川啓子さんが推薦されました。なお長谷川さんは区内に住所を有し、年齢が 18 歳以上という要件を満たしていることなどから、推薦会議運営要綱の第 7 条第 1 項により、推薦会議の議決を持って市長へ推薦することになりました。なお後

任委員の任期は、前任委員の残任期間がありますので、令和元年7月1日から、令和3年3月31日までとなります。以上で新任委員の報告を終わります。

(金子会長)

ありがとうございました。ただいまの件についてご質問ご意見等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。よろしいようですので、次第1は終了させていただきます。

(2) 令和2年度 秋葉区特色ある区づくり事業について

(金子会長)

次に、次第(2)「秋葉区特色ある区づくり事業について」です。地域総務課の小野課長よりご説明をお願いします。

(地域総務課)

資料2-1をご覧ください。令和2年度の特色ある区づくり事業の予算についてご説明いたします。特色ある区づくり予算は、各区において、地域課題に対応するために事業に充てる予算となります。基本的な枠組みとしましては、例年同様、区役所が事業の企画実施を行う区役所企画事業と、自治協議会員の皆様が自ら企画実施される、区自治協議会提案事業の二本立てとなっております。まず区役所企画事業についてご説明いたします。区役所企画事業は区の課題解決に向けた取組み、区の特色を生かした取組み、区民との協働を進める取組みにかかる、ハード事業は対象外になり、ソフト事業となります。限度額は自治協議会提案事業と合わせて2,900万円です。平成29年度までは、区役所企画事業と自治協議会提案事業それぞれ2,400万、500万としておりましたが、昨年度より、柔軟に対応できいるよう、合算して限度額としております。実際に予算を編成するにあたっては、2,400万円と500万円を一つの目安として組み立てていただき、過不足を互いに調整していきたいと考えております。区役所企画事業の期間は原則3年以内となっております。自治協議会の関与としましては、区役所が事業を実施、立案するにあたり、委員の皆さんからいただきますご意見や提案を地域意見として、素案づくりの参考とさせていただきます。そのため、先ほど会長からお話がありました、本会議の後半にグループに分かれてアイデアについて考えていただくためのワークショップを行う予定としております。秋葉区、区ビジョンの五つの柱に沿ったご意見ご提案をいただければと思っております。

次に2ページをご覧ください。12月の予算要求に向けて、本日から12月までの事業案を策定するためのスケジュールをこちらに示してあります。一番左側が区役所企画事業のスケジュールになります。まず意見募集ですが、8月19日(月)を締切に委員の皆さまからご意見ご提案をちょうだいいたします。ご提案いただいた事業につきましては、8月の第5回

自治協議会でご提案いただいた委員の皆さまから簡単に説明していただきます。これを基に区の各担当課においてご提案いただいた委員の皆さまと意見調整を行い、既存事業の拡充や廃止、新規事業の立ち上げなど、企画立案作業を行います。その後 10 月の自治協議会で事業の素案である事務局（案）の中間報告を行い、委員の皆さまより改めて意見をちょうだいいたします。ちょうだいした意見を踏まえ、事業修正調整を行い、事業案としては 11 月の自治協議会においてご承認いただき、予算要求作業を進めていくこととなります。

1 枚目に戻っていただきまして、区自治会事業提案事業について説明させていただきます。区自治会事業提案事業は例年自治協議会委員の皆さま自らが事業を提案し、主体となって進める事業でございます。事業の内容としましては、地域課題の解決に必要な新たな取り組みや既存の取り組みと連携するものでございます。期間は原則 1 年で終了することが前提となっております。事業は企画、実施、評価、改善の各過程において自治協議会が主体的に取り組んでいただくものとなります。また地域コミュニティ協議会などの地域活動団体と連携して事業を実施することも可能です。

続きまして 2 ページですが、右側が区自治会事業提案事業のスケジュールになります。今日の説明をもちまして、委員の皆さまから来年度の自治協議会提案事業を募集いたします。提案を受けたのちは、提案事業検討委員会において振り分け等の作業を行い、9 月に行われる第 6 回自治協議会で委員の皆さまにご報告し、それを受けて部会で提案の内容を検討、ブラッシュアップしたのち、最終的に 12 月の自治協議会で検討、概要の報告をいただく予定です。

次に、二つの事業の提案募集の方法ですが、これは資料 2-2 になります。提案募集にあたりましては、2-2 の様式により 8 月 19 日までにファックスまたはメールでお送りください。当会議の後半のワークショップでは、委員の皆さまの所属される団体における活動や、これまでのご経験などを生かしてご検討いただき、積極的にご提案、応募くださるようお願いいたします。今年度分の提案事業がこれから佳境を迎える中、来年度事業の企画まで考えるのは難しいと思いますが、原則として今回提出されたアイデアの中から来年度事業が決定していく、ということになりますので、多くのアイデアを提出していただきたいと思います。なお、資料 2-2 が不足の場合、または電子データが必要な場合は事務局までお申し付けください。なお、先ほどの資料 2-1 の後半は、新潟市 8 区の昨年度の区役所企画事業の概要と、各区の自治協議会提案事業の概要を添付しておりますので参考にさせていただきたいと思っております。

（金子会長）

ありがとうございました。質疑ですが、先ほど申しましたように、後半ワークショップで

こんなことをやったらいいのではないかと、こんなふうにやったらいいのではないかということをごんごん出していただきますので、そういったことは後半の部分でぜひ出していただくことにしまして、それ以外の部分で何かご質問等、ご意見等ございましたら、お願いいたします。

(渡邊(彩)委員)

渡辺です。それぞれの区のごんごん事業を拝見させていただき、感じたことを少しだけお話しさせていただきます。その地域によって特色が違ふとは思いますが、西区と秋葉区で比較してみたときに、例えば秋葉区の場合ですと、小学校、中学校の児童生徒が入っているというのが、上から8番目の「子ども発見体感サポート」のみに比べますと、西区は上から2段目、4段目、一番下と下から2番目というふうにごん、おそらくこのままこのような形で進めていくと、10年後、その子どもたちが育ってきたときに大きな差が出てくるだろうと見込めます。つまり、秋葉区は人材投資の比率を高める必要があるのでは無いかと感じました。

(金子会長)

ありがとうございます。そちらはご意見ということで、また後半のワークショップでも参考になればと思います。

ほかはいかがでしょうか。特によろしいでしょうか。ではワークショップの中で忌憚のない、また新しいアイデア等出していただければと思います。

ただいまの資料の、秋葉区のページをご覧ください。ここに秋葉区の区づくり予算ということで、現在のものが書かれているのですが、その中で五つテーマが出ていて、うるおいとやすらぎのあるまちだとか、楽しく元気なまちなかとか、やさしさのあるまち、歴史と個性を活かすまち、花のまち・食のまち・育てるまち、生み出し活かすまち、五つのテーマが掲げられています。本日後半の第2部のワークショップでは、五つのテーマごとにグループを編成したいと思っておりますので、あらかじめどちらのほうにご参加いただけるか、今のうちから考えて決めておいていただければと思います。特にご意見ご質問等ないようでしたら、次第(2)はこれにて終了させていただきます。ありがとうございます。

(3) 石油の世界館魅力向上事業について

(金子会長)

次に次第(3)「石油の世界館魅力向上事業について」、産業振興課の長崎課長から説明をお願いいたします。

(産業振興課)

資料3「石油の世界館魅力向上事業について」、先日、新潟市議会でご承認いただきました

た内容について、ご説明させていただきます。内容として、アラムコ・アジア・ジャパンというサウジアラビアの石油会社の日本法人から、石油の世界館の魅力向上についてご寄付をいただいたということでございます。今施設の概要については皆さんご存じかもしれませんが、昭和63年、今から31年前にオープンした施設です。石油の里の中にある施設ですが、中野邸資料館の隣にありまして、昨年10月には新津油田金津鉱場跡として、国の史跡に指定され、我が国における産業経済に大きく寄与した新津油田の紹介をしている施設でございます。3番、経緯については、ご一読いただきたいと思いますが、数年前から、石油の世界館に注目されていて、寄付を希望されていたということでございます。4番寄付活用事業の内容ということで、いただいた寄付をどのように有効に活用していくのかというのが、これから産業振興課で進めていく作業になりますけれども、開館30年を経たわけですが、その間、内容のリニューアルというものが行われず、空調設備ですとか、給排水、漏水等のリニューアルはしておりましたが、内容の更新をしてこなかったということで、今回、故障しておりました映像設備のリニューアルをするということで考えております。またその背景ですけれども、②番に書いてありますが、まず国の史跡指定をしていただいた内容を説明すること、そして、金津の山の中に見られます、油が浸み出している現場を見られるような映像。3番目ですけれども、対象としては、小中学生が今学習活動で、年間5から6校、400人ほど来ております。その子どもたちが学習で生かせるような映像、できれば副読本も作りたいと考えております。子どもは大型バスで、中央区ですとか、五泉市、三条市から来ていますけれども、天気が悪いときにその山中に行って石油の浸み出ているところを見るには限界があるということもありまして、天候が悪くても見られるような仕組みを整えたいということでございます。ここには書いておりませんが、今回、ご寄付をいただきました、サウジアラビアの石油の会社が行っている事業などもご紹介させていただければと思っております。最後に5番ですが、議会のご承認をいただきましたので、これから事業に着手をしまして、来年の夏前にはリニューアルオープンをしたいということで作業をしているところです。

(金子会長)

ありがとうございました。設立からだいぶ時間が経って、ちょうど施設も設備も老朽化が進んでいたところで、非常にありがたいつながりができたと思いますが、ハードの部分だけではなく、ソフトもいただいた寄付を活用して充実させていくという内容でございます。ご質問ご意見等がございましたらお願いいたします。

(川名委員)

新津青年会議所川名でございます。今、石油の世界館の魅力向上ということで、すごく大

きな寄付があったということで、私も見せていただいたのですが、私の仲間で、石油の施設が大好きな友達がいる、自ら仲間から仲間がつながってコミュニティを作って、休みがあったらそういうところに見に行っているという話を聞くのですが、例えば秋葉湖の上のほうとか、少し斜面の広場、公園があると思うのですが、あそこにも何かしらの施設があって、そこには何も説明がないと。危ないから立ち入らないでくださいとは書いてあった気がするのですが、そういった少し謎な面白い、好きな人からすると魅力のある施設がたくさん、石油の世界館の周辺だけではなくて、秋葉山の中にはあるように私も思っていたので、立ち入り禁止だけではなくて、これは、こうだから危ないんだよというところと、これは何なのかというのが分かると、この前のUXの「まるどりっ！」で新津温泉に栃木から来られたという方が取材されていらっしやったので、そういう方への魅力の発信にもつながるのではないかと思います。既存の、昔使われていたものに、鉄道の看板をつけたりというのは進んでいるのですけれども、そういうところも財源に余裕があるようであれば検討していただければと思います。

(産業振興課)

先ほどの区づくり事業のところ、関連するところがあるので少し見ていただきたいのですが、秋葉区の予算の概要、秋葉区の区づくりの下から四つ目に「区民主動で秋葉公園魅力アップ」という事業がございまして、昨日、中央コミュニティ協議会さんとの地区懇談会でも同様のご提案というか、ご意見がありまして、ここの公園魅力アップの中で、今ほど言われた運動広場の油が浸み出しているところも該当する中で、所管は建設課になるのですが、事業の中でそういうところも紹介をしていこうというご説明がありましたので、建設課とも連携して、魅力づくりに取り組ませていただきたいと思います。

(伊藤(直)委員)

公募の伊藤と申します。具体的に寄付活用事業の内容ということで、機器の改修、施設の改修プラスソフト制作とあるけれども、具体的にどのくらいの費用を見込んでいるのでしょうか。それをぜひお願いします。

(産業振興課)

個々の内訳まではまだ今作っておりませんで、業者さんと当たりながらどのくらいの比率だったら出来るのかということ、調整をしているところです。その当たりの内訳が出来てくると、入札という形で業者選定に入れると思っておりますので、まだまだ内訳まで含めて形作るのはいずれからということでご理解いただければと思います。

(金子会長)

大きな項目だけ今あるということですね。その中身について調整中だということ。伊

藤委員、現状としてはそれでよろしいですか。ほかにご意見等はございますか。

(伊藤(直)委員)

分かれば、おおよその概算も知りたかったのですが、はっきりしてきたらお知らせください。

(金子会長)

お願いいたします。ほかにご意見ご質問ありますでしょうか。

ないようですので議題(3)は終わらせていただきます。

(4) 新潟市区自治協議会委員研修会の開催について(報告)

(金子会長)

続きまして、議題(4)「新潟市区自治協議会委員研修会の開催」ということで、これは阿部副会長からお願いいたします。

(阿部副会長)

7月1日に北区の文化会館において研修会がありまして、写真があると思いますが、秋葉区からは12名で参加してまいりました。市の市民協働課の松屋課長から、自治協議会委員への期待についてお話があった後で、4区の代表の方から発表がありました。一言ずつでいいますと、南区は、区長のマニフェストをチェックする、評価するということが特徴的に感じました。西区は、除雪の取組みの発表でした。北区は、福島潟がありますので、そこを活かしたまちづくりの発表でした。我が秋葉区が一番最後の発表だったのですが、小林副会長が発表されました。堂々と、実践に伴い活動報告されましたので、大変好評だったと思います。存在感のある発表でした。とてもよかったです。

(金子会長)

ありがとうございました。ご出席いただいた委員の皆さまありがとうございました。私も小林委員の発表はとてもよかったと聞いております。本当にありがとうございます。ただいまの件につきまして何かご意見ご質問等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

ないようでしたら、次第(4)は終わらせていただきます。

(5) その他

ア 部会活動報告

(金子会長)

次に、次第(5)です。各部会の活動報告でございます。第一部会の小林部会長から順番にお願いいたします。

(小林委員)

第1部会のきらめきサポートプロジェクトの進行状況を報告いたします。7月3日に説明会を開催いたしまして、全部で9団体から申し込みがございました。そして7月17日に書面での一次審査を行いまして、本日のこの会議が終わった後2次審査を行う予定でいます。二次審査では4団体からプレゼンテーションを行っていただきます。今日中に採択団体を決定し、8月から各団体と打ち合わせを始めていく予定です。来月の自治協議会で採択事業の内容や進捗状況について再度ご報告申し上げるつもりでおります。

(金子会長)

ありがとうございます。本日これからですね。夜、審査会があるということです。小林副会長には、お疲れのところ大変恐縮ですが、よろしく願います。第2部会の佐藤部会長からお願いいたします。

(佐藤委員)

第2部会は三つの課題がありまして、一つが福祉施設と地域の防災上の関係づくり、2点目が認知症予防に資するイベントの開催、三つ目が地域公共交通についての検討会ということですが、認知症予防のイベントを11月28日に開催することに決定しました。今日はその具体的な運用方法について検討する予定であります。

(金子会長)

ありがとうございます。第3部会の島倉部会長から願います。

(島倉委員)

第3部会は、7月18日に小合東小学校で行われた小学校長会に出向き、3、4年生の児童にあきは子ども大学のチラシを配布してほしいというお願いをして、承諾していただきました。併せて7月21日の区だよりも掲載されておりますし、市のホームページでも募集をしているところであります。締切は8月20日で、多くの方の申し込みをいただきたいと思っています。前期は第1回9月28日、新津鉄道資料館と総合車両製作所の見学、第2回目は10月19日、弥生の丘資料館見学、まが玉作り体験、史跡八幡山遺跡探索、第3回では秋葉区の食材を使った親子クッキング体験、最後に修了証を授与して終わるという前期の計画となっております。

(金子会長)

ありがとうございます。最後に、広報部会の田中部会長からお願いいたします。

(田中委員)

広報部会の田中です。「かわら版」の22号ですけれども、8月15日発行の予定です。このかわら版の原稿をいろいろ書いていただきまして、感謝申し上げます。「かわら版」ですが、先ほど第1部会の小林さんからお話があったように、きらめきサポートのお話があった

り、今夜審査ということで、きらめきサポートの採択結果、これを入れまして完成ということになります。作成中の「かわら版」ですが、原稿を書いていた皆さんと広報部員の会員の皆様に配布しております。確認していただきまして、どうしてもという訂正箇所がありましたら、今日、この会場を出る前に、事務局の白井さんにご連絡をいただきたいと思っております。次にFMにいつですけれども、秋葉区発物語、毎月第2水曜日の12時20分から30分番組で放送しております。今後年間の出演者につきましては、各部会に、この前の部会でお話ししたところ、決めていこうということで、各部会にお願いするということで、各部会に出演のスケジュールを、各部会の事務局にお渡ししておりますので、この後、お話をさせていただいて、FMにいつに出演をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。今後とも地域協議会のPRをこの皆様と一緒に発信して行って、秋葉区の魅力を皆さんに広めていきたいと思っておりますので、今後ともご協力をよろしくお願ひしたいと思っております。

(金子会長)

ありがとうございました。ということで、一巡しまして、それぞれの部会の情報共有いただきましたけれども、いかがでしょうかお互い何かもう少し質問とか、反論意見等ありましたら挙手いただきたいと思っておりますが、どうでしょうか。よろしいでしょうか。

特にないようですので次に移らせていただきたいと思っております。

イ 秋葉区認知症講演会のお知らせ

(金子会長)

本日、さまざまなチラシを配布いただいているのですが、その説明をさせていただきたいということでして、まずは秋葉区認知症講演会のお知らせについて、健康福祉課の明間課長より説明をお願いいたします。

(健康福祉課)

健康福祉課の明間でございます。今日は秋葉区の認知症講演会についてのお知らせです。8月10日(土)の午後から、秋葉区の文化会館で認知症を学び、地域でともに暮らすためにということで、講演会を開催いたします。この講演会については、認知症の理解を深めていただくということとあわせて、今認知症の方々が増えている状況の中で、地域で支え合う体制を作っていくきっかけづくりになっていけばいいなということで開催をするものです。講演会と、リレートークということで、それぞれ認知症の支援に関わっている方々のお話を聞くという形になります。講演会の講師を務めていただく丹野さんという方ですが、39歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断されております。職場の皆さんの支えを受けながら、現在も仕事を続けていて、「おれんじドア」という団体を立ち上げておりまして、認知症の

当事者の方が、認知症の方の相談に応じるという体制を築き上げております。その方の講演と、その後は下越病院の神経内科の川上先生、ケアプランあおばのケアマネージャーを務めています石本さん、秋葉区在住の認知症当事者ということで、中澤さんのお話を伺う予定としております。7月7日の区だよりに掲載してありまして、すでに申し込みが始まっております。自治協議会の委員の皆様方にもぜひ参加していただきたいと思ひまして、今日ご案内させていただきます。先ほど第2部会でも、認知症のイベントというお話がありましたけれども、ぜひこちらにもご参加いただきたいと思ひます。コールセンターが申込先となっておりますが、本日ここで申し込みしますという方がいらっしゃいましたら、終了後に私に声をかけていただければ、私のほうで申し込みを承ります。よろしくお願ひいたします。

(金子会長)

ありがとうございました。大変貴重な機会でございます。ぜひご都合がよろしければご参加いただき、お誘い合わせのうえお声がけいただきたいと思ひます。今日、参加できるということがお分かりの方がいらっしゃいましたら、ぜひ、明間課長にお声がけください。

あと何種類かチラシが配られているわけですが、本日の配付資料の中で目立つのはお祭りとか、花火とか、いよいよこういうのが見えてきますと、夏本番という感じがするわけですが、元気な秋葉区の夏を皆さんと一緒に盛上げていただければありがたいところがございます。特にポスターを本日配っていただきましたけれども、にいつ夏まつりのポスターをどこか目立つところに貼ってくださいという意味合いかと思ひます。もっと貼りたいという方のためにもっとあるのではないかと思ひますので、事務局にお声がけいただきたいと思ひますし、皆さんもぜひ人目につくようなところに貼っていただき、またご参加もいただきたいと思っております。歩行者天国が8月3日ということですね。お囃子が8月14日で、松坂流しが16日、屋台祭りが19、20日、堀出神社の例大祭が19、20と21日ということですね。本当に秋葉区の夏は祭りだらけという感じですね。

イ AKIHANABI2019 について

そのほかにもさまざまなイベント資料ちょうだいしていますので、せっかくですので「AKIHANABI2019」については、長崎課長からご紹介いただいてもよろしいでしょうか。

(産業振興課)

産業振興課です。AKIHANABI第7回のご案内をさせていただきます。チラシは第一報ということで表面のみですが、実行委員会からご案内いただきたいということで、シャトルバスを担当しております産業振興課からご紹介いたします。ちなみに、実行委員会はもともと青年会議所と商工会の青年部が中心となって運営をしている状況です。

新潟市の中で秋に行われる花火、市内では最後の花火ということになりますけれども、9月22日、三連休の中日に実施します。今回は、新しい取組みとしまして、カラオケ大会、いわゆるのど自慢コンテストですとか、あるいはペットボトルによるランタン照明といったものも行います。また、プレゼント抽選会も企画しているということで、より子どもたち、一般の方々も楽しめる中身を考えていると聞いております。会場は、金屋運動広場の河側の阿賀野川水辺プラザになりますので、特に新関の皆様方には渋滞を始めご迷惑というか、ご協力をいただくことになりますので、そのことも含めてご紹介をさせていただきたいと思えます。ありがとうございました。

ウ プロジェクション映像上映会について

(金子会長)

ありがとうございました。小須戸地区のプロジェクション映像上映会がございますが、こちらは佐藤委員からお願いします。

(佐藤委員)

8月に入ってからまず山の手コミュニティ協議会が花火を打ち上げます。会場は、山の手ふれあい会館、あそこから見えるのではないかと思います。8時ころにあがる予定ですので、こちらで紹介させていただきます。

それから、8月8日、当小須戸コミュニティ協議会は、子どもたちが3年生から6年生までかけて小須戸のことについて学習しまして、最終的に地域に対していろいろな提案をしてくださいました。それが3か年続いたわけではありますが、子どもたちがせっかく考えたことについて大人が何も考えないのではだめだということで、上映会をいたします。8月8日、少し時間が早いので暗くなるか少し心配なのですが、7時から8時までの1時間でやります。映像を映すところは、まちづくりセンターの北側の壁面を考えております。雨の場合は中でやる予定ですので、ぜひ来ていただきたいと思えます。まちづくりセンターでかき氷の販売もしておりますので、それを含めて子どもたちを呼び込もうということで、大人も呼び込もうということで、頑張っている最中でありませう。

次に、小須戸祭りですが、昨年までは喧嘩（けんか）灯籠と「喧嘩」がついたのですが、今年、昨年からいろいろな問題がありまして、「喧嘩」を取りまして「灯籠押合いまつり」になりました。メインは8月25日、大体夕方5時半から、灯籠をぶつけ合って押し合うというお祭りです。このとき、コミュニティ協議会が管理している薩摩屋の2階を有料で開放して、目の前で押し合いが見られるという企画も練っておりますので、見たいという方はぜひいらしていただきたいと思えます。

(金子会長)

佐藤委員ありがとうございました。あとは「図書館だより」とか、先ほどお話のあった市民大学のチラシ等々配られてありますけれども、これもまた皆さんの方でご覧いただきたいと思います。申し訳ございません、ずっと流してしまいましたけれども、ただいまのご紹介についてご質問等ございましたら、こちらでお願いいたします。いかがでしょうか。

(小林委員)

中央コミュニティ協議会の小林です。一番最初の、認知症を学び地域とともに暮らすためにという講演会について聞いているわけですが、まず一つは、この自治協議会委員の人たちに呼びかけをいたしました。これは民生委員の方には非常に必要なものだと思いますが、民生委員への働きかけがあるのかどうか。

もう一つ、主催者側に、秋葉区キャラバンメイト連絡会というのがありますが、これは一体どういう組織なのか。初めて聞くものですから、教えていただければと思います。

(健康福祉課)

健康福祉課です。まず1点目の民生委員さんへのご案内ということですが、各地区に地区民生委員の会がありますけれども、そこでもご案内を差し上げています。

キャラバンメイトのお話しですが、認知症サポーター養成講座を受講された方に、認知症の理解をしていただいたということで、今私も付けておりますが、オレンジリングをお渡しし、認知症サポーターになっていただくという制度がございます。その中でもさらにステップアップの研修を受けていただいた方が、キャラバンメイトという名前で認知症サポーターの研修会を行ったり、こういう講演会等のお手伝いなどの活動をしていただいております。認知症を広く広めていただくということで、メイトさんといわれております。

(小林委員)

分かりました。ありがとうございました。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。せっかくですので、資料はないけれども、何か共有したいものがあるという方がいらっしゃいましたら、ご遠慮なく挙手いただきたいと思いますが、いかがですか。よろしいでしょうか。情報共有の場としても非常にいい機会だと思いますので、何かありましたら、次回の会議に向けて、事務局にお声がけいただければと思っております。

それでは、特にないようですので、これで第一部の議事を終了させていただきます。進行を一旦事務局にお戻しします。よろしく申し上げます。とりあえずありがとうございました。

3 ワークショップ

「令和2年度 特色ある区づくり予算事業について」

(金子会長)

これから資料に載っている順番に、1番、2番、3番、4番、5番と順番に発表していただきたいと思います。

(「うるおいとやすらぎのあるまち」グループ)

それでは「うるおいとやすらぎのあるまち」グループ、伊藤、須田、阿部、佐々木で話し合われた内容を報告いたします。まず「うるおいあるまち」ということで、大きく三つ出ました。一つは、うるおいというのは基本的には今ある秋葉区の魅力、財産でどうアピールしていくか。それをどう共有していくかという話し合いです。一つは、遊歩道がたくさんあるのですけれども、その遊歩道をどう整備してどう活用していくかというのが一つ大きなテーマとして話し合われました。もちろん、トイレを作ったり、草を刈ったり、みんなが歩きやすいようにするということもあります。それを含めて、いろいろなところにある遊歩道を、こういうところにこういう道があるんだという情報共有がまだまだなされてないのではないかと。せっかく秋葉山にも遊歩道がありますし、新津川にも遊歩道ありますが、それらをみんなが楽しく歩けるような情報が発信できたらいいなというのが一つです。

二つ目は、子どもたちも里山の自然とか虫とかを勉強したがったり、いろいろな遊びをしたいのだけど、なかなか山にも入っていけないということで、コーディネータが必要だろうと。そういった得意技を持っている方がたくさんいるので、そういう方々を活かしてコーディネートしていただくと、すごく活気が出るのではないかと。最近、キャンプも流行になっていますが、バーベキューとか、秋葉山も再整備して、キャンプ場の整備をしながら管理をして秋葉山を活用していったらどうかという話も出ましたし、秋葉山の頂上に吉田家という建物がありますが、それを活用してほしいというご意見も隣のグループからいただきました。

最後ですが、「やすらぎ」という部分では、誰にとっても優しいまちづくりという部分で、遊歩道、それから歩道の整備がなっていないのではないかと。ここはやはり歩行者の立場に立って、それから体の不自由な方々、お年湯折りを含めてそういった方々にとって歩きやすい道を整備して、ゆくゆくは文化の道とか、なんとかの道とかということで、気持ちよく歩けるようなまちづくりをしていったらどうか。情報共有、それから外部によるコーディネート、歩行者にとっても優しい道づくりということが最後まとめとして挙げられました。

(「歴史と個性を活かすまち」グループ)

2番目の「歴史と個性を活かすまち」。メンバーは本田、荒井、花水、大貫、羽生、伊藤、佐々木。最初に出していただいたのは、鉄道のまちとしてのさまざまな要素、あるいは石油

のまちとしてのさまざまな要素、秋葉区の歴史といったものがいろいろな形で出ましたが、鉄道については鉄道資料館を中心に、いろいろと行政でもやっていただいているし、石油のまちも先ほどありましたとおり、石油の世界館のリニューアルに向けて新しい要素が加わってくる。こういうものをどのように活かしていけばいいか。一つ出たのは、ほかの地域と違ってモデルコース、秋葉区をめぐるモデルコースみたいなものがいくつかあればいいよね。そこに案内人の人がいたら最高だよねというような話。そういうものを、例えば食の面も含めながら、こうしたものを、情報発信を上手にしていく必要があるのではないのという話が出ました。

こちらのほうは少しまた違う要素もあるのですけれども、ここは文化活動といえればよいのでしょうか、文化会館をもっとうまく地域の皆さんからも活用してもらおうと。子どもたちに文化会館のステージに上がってもらおう企画だったり、地域の神楽舞等を文化会館で一堂に会してみんなに観てもらったらどうかとか、あるいはサークルをリフレッシュというか、継続できるような形で、サークルの交流会みたいなものも出来るのではないか。あるいは吉田千秋の「ひつじぐさ」の歌をテーマに音楽祭をやったらどうかというような、文化会館を使って文化交流をしていきたいと思いますという部分。

もう一つは、子どもに地域に愛着を持ってもらおうということで、秋葉区の特産品のデザインの募集などを子どもたちに出してもらったらどうかとか、子どもと商店街がコラボしていろいろな活動ができないかとか、子どもたちも巻き込んだような形でやっていったらどうかといったことが出ました。最終的にはこういうことをやるにしてもやっぱり人だよ、仲間作りが大切ですよ。ハードだけではなくてソフト面というものが大切なので、こういった形で秋葉区の特徴をPRできたらいいなということでまとめさせていただきました。

(「楽しく元気なまちなかやさしさのあるまち」グループ)

「楽しく元気なまちなかやさしさのあるまち」ということで、それぞれの世代にとっての元気さ、優しさというのは何だろうというところから話が進みまして、まずは、生まれた子にということ、生まれた子の親に元気をということ、元気の出るお祝い、100万円を第3子に贈りましょうというところからスタートしてまいりました。第3子目なのでぜひ実現してください。小・中・高・大かわらず、自主学習のできる場をまちなかに作りませんかというご提案が、空き店舗空き家たくさんございますので、そちらを有効に活用しながら、高齢者の方々力を若者にというお話しが出てまいりました。また逆に親御さん同士の悩み事が話せる場というのが、小さいところに、近所にあるといい、また障がい者のお子さんをお持ちの方が悩み事を話せる場があるといいということで気軽に話せる場があったらいいよねという話が出てまいりました。高齢者への思いやりということで、お茶の間というのが町内

にあると思うのですけれども、そこで、ご自身が自分の健康チェックを自主的に行えるような、介助費などの援助もあったらいいよねとか、向こう三軒で一人暮らしのごみ出しのお手伝いなどもできたらいいよねという話も出ました。結局、さまざまなサポートをしている方々がいらっしゃるのですが、そのサポートをサポートするというのがこれから必要なのではないかというお話で、例えば子ども食堂のご活動がありますけれども、物心両面の援助ですとか、あるいは多世代の交流拠点となるような場所をコーディネートするですとか、学生の第3の居場所を作っていけるような活動テーマがこれから必要なのではないかというお話が出ました。

（「花のまち・食のまち・育てるまち」グループ）

それでは、私たちのグループは「花のまち・食のまち・育てるまち」というテーマのもとで意見交換をしました。私、川名と、蓮沼さん、伊藤さん、沢田さんの4名でした。少ない人数でしたがけっこう盛り上がりまして、いろいろなものが出ました。まず花について。はさは知られているけれども、なかなか、区外にももう少しPRできるようなことを考えてはどうかと。個々のことをいうと、プチヴェールや……長寿のまち、そしてフラワーロードの関係、あとはお庭のこととか、せっかく花の専門家がたくさんいるので、庭のことをもう少し掘り下げてもいいのではないか。あとは大学との連携がありました。面白かったのは小学校の植物の手入れが、用務員さんだけではまかないきれいなという現状があります。これは後ほど最終的な話をさせてもらいます。

食について、まず、秋葉ミシュランというものを、みんなで秋葉の特色を活かした食を開発してはどうかというところで、山形では「芋煮」があるけれども、新津にはそういうものがないよねということで、私も電車が好きなので、駅弁をオリジナルで開発したらどうか。あとは食育推進、フードロスの対策、ゼロ円食堂、この辺は同じようなところでかかわってくると思うのですが、そういうところの食の話が出ました。

最後、育てるまちということで、育成のことの意見を出しました。まず世代を超えたアイデアをどんどん取り入れる必要があるということで、子どもからアイデアをもらったり、薬科大からもらったりというところから、意欲のある若者を育成する必要がありますし、核家族が増えているので、世代を超えた交流をはかることで、思い入れのある人材を育成できるのではないか。あとは小中高大学で一貫した授業の連携を取ってはどうかというところが話として出ていたところです。最後に、花のところの先ほどの樹木の手入れとか草花の手入れ、子どもたちの花育も含めて、公共私設学校の植物の手入れを、民間、市民協働で事業としてやってはどうかというところのまとめになりました。このところから住みよい、せっかく来ていただいた新しく移住したかたも住みやすく、もともと住んでいる住民も住みやすい

いい秋葉区が出来るように意見交換をいたしました。

(「生み出し活かすまち」グループ)

「生み出し活かすまち」です。小林さん、田中さん、齋藤さん、佐藤さん、そして私、長崎です。最初にゴール、議論の中で出てきたのは、やはり目指すのは活気のあるまちを作ることだよねという話になって、スタートはどこかなという話の中から、小学生、中学生、できれば、高校生、大学生も入れて、アイデア出し、アイデアコンテストみたいなことをしたらどうかという話になりました。そこから起業に向かう講座にできたらいいのではないのということで、金子さんからも起業塾、秋葉チャレンジという名称なんてどうですかという話もあったり、やはり中高生を対象にした講座もあるといいよねというお話しでした。そこには担い手として、例えばたくさんおられる年配者高齢者の方々にも参加してもらいたいし、子育てママ、キラキラ女子なんかもそういうところに加わっていただくといいよねというお話がありました。

その対象はやはり、いろいろな資源、課題が地域の中にありますよねと。観光交流だったり、農業、花、農産物をもっとブランド化したり増やすことができますよねと。商店街でワークショップをしたり、空き家も活用する。そんな話が講座の中で、起業として出てもらうと、講座も育つし、人も育つし、結果としてまちが育つことになるのではないですかというお話がありました。そういう講座には支援が重要だよねということで、起業するための支援金だったり、ハンズオンという伴走支援・つきっきりでそういう方々が育つための支援も必要だよねという話がありました。一方で、就職するところも探さなければいけないから、IT企業や大企業の誘致も必要だよねという話もありました。ITですと、IT関連の事業、あるいは東京から離れて地域でIT企業が事業をすることが今は可能になってきているので、そういうところで若い人にも来てもらい、そういう人たちが移住・定住することによって、さらにまた新しい事業が生まれるのではないかと。あるいはITを活用して、地域の課題を解決するような事業が生まれるのではないかとという話がありました。

(金子会長)

ありがとうございました。限られた時間でしたけれども、こういう形でやると、とにかく意見を繰り広げることが出来、しかも整理するところまで皆さんでしていただいて、非常に意義の大きなワークショップだったのではないかと思います。とにかくこのメンバーですから、いい結果が得られないはずはないと私は思っていました。これは次にぜひ、今日言いきりで終わりではなくて、つなげる必要があるかと思いますが。先ほどのグループワークの中で、もう一段階。今日配っていただいた書式に、こういうフォームに書いて、これは8月19日までに提出してくださいというのがありますが、これに書き起こして提出すると、一

番提案としては強いということになります。本当に押したいものが、今出したものの中にあるようであれば、どなたかに書いて出していただくのがいいのではないかと思います。もちろん、それ以外のものは全く考慮に入れられないかという、秋葉区自治協議会の会議の中で出てきた意見ということには間違いないので、その辺は参考意見として活用いただけるということだと思っております。

もう一段階強い提案にするために、これに書いて出したほうがあってもいいのではないかと思います。その辺の話までは進みましたでしょうか。5分くらい時間を取って、このことについてだれかが書いて、できるならばグループで少し共有したうえで提出するということになる、よりいいと思います。その辺の話し合いに少し時間取らせていただいて、この結果、この成果品は、一旦、事務局に返してしまいますので、忘れないように、携帯か何かで読めるように撮って、持ち帰っていただくとすぐに使えると思いますので、そのところまでお願いできればと思います。では、5分か10分くらい時間取りますので、この後、これをどういうふうにさらに提案につなげていくかというところを、グループの中で話し合ってもらえればと思います。お願いします。

活発に話し合いが続いているようですが、この後、部会の作業がありますので、この辺で一旦切らせていただきたいと思います。すでにこちらの書式持ちは帰らずに、書いてしまったグループもあるようです。また今日のお話でインスピレーションが湧いた方もいらっしゃると思いますので、8月19日が締切です。このファイルも請求すれば送ってくれるそうですので、ワードファイルでできているそうです。取り寄せて、ぜひ提出していただければと思います。

それでは、秋葉区自治協議会の会議第二部をこれにて終了させていただきます。皆さん、ご協力ありがとうございました。お疲れさまでした。

4 閉会

(阿部副会長)

急に暑くなってきました。ぜひ体調管理して、この暑さ乗り切りましょう。皆さんお気をつけて。ありがとうございました。